九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[018]九州大学産学連携センター年報 : 18

https://doi.org/10.15017/26849

出版情報：九州大学産学連携センター年報. 18, 2013-02-22. 九州大学産学連携センター
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

4．デザイン総合部門事業

4.1　デザイン総合部門の目標

産学連携センター各部門共通の目標として、先端芸術科学技術分野および新しい学際的融合分野において高度な産業技術シーズの創出を行うと共に、産業化を狙った産学連携プロジェクト研究を企画・推進する。その中で、特にデザイン総合部門では、「技術の人間化」を目指す芸術工学分野、芸術科学技術シーズの産業化に資するデザイン分野、人間と自然科学の融合分野における技術シーズの発掘および産官学連携コーディネート、デザインとテクノロジーを融合した産学連携プロジェクト研究の企画・推進、更にアカデミックな立場からの地域デザイン産業界との協調や支援等を行うことを目標としている。

4.2　デザイン総合部門事業及び研究・企画とその推進

4.2.1　概要

九州大学知的財産本部とも共同し、デザイン・芸術分野における産学連携・共同研究の推進、キャンパス・インキュベーション活動等を総合的に推進する。

また、「空間・もの・音・画像・ネットワーク」といった分野を扱う芸術工学研究院とも協調して、「人間科学・視聴覚メディアコミュニケーション・環境遺産・コンテンツクリエーション・デザインビジネス戦略」といった総合的ジャンルにおける、デザインおよび芸術工学独自の新しい産学共同研究を推進する。

自然科学系および人文科学系という、これまで必ずしも産学連携・学々連携が行われなかった２つの分野における、固有のテクノロジーとデザインの融合に基づく、横断形プロジェクトを企画および推進する。更に「産学連携学」の充実とデザイン学との融合・発展に取組む。

4.2.2　平成２３年度の活動実績

○部門の研究施設設備による活動

例年のように、改めてデザインおよび芸術系独自の産学連携共同研究の推進（九州大学日本芸術文化資料庫事業等、デザイン総合部門・大橋キャンパス）につとめた。学内の様々な部署で、テクノロジーとデザインの融合に基づく横断型プロジェクトが推進されている。デザイン総合部門としては、「ホールマネジメントエンジニア育成ユニット」（平成20年度～23年度事業）への研究施設設備の提供を継続した。

○共同研究事業による活動

①九州大学日本芸術文化資料庫事業は、デザイン・芸術に関わる知的財産への認知・理解を高める活動として、九州国立博物館・京都国立博物館・東京国立博物館、および、幾つかの民間美術館博物館（五島美術館、MOA 美術館、箱根美術館、等）と協働しつつ、着実に共同研究作業を積み重ね、またこの事業に関連する客員教授等との連携活動も継続している。また科学研究費補助金等への研究費獲得努力も継続

しつつ、平成20年度「科学研究費・研究成果公開促進費データベース（課題番号208002）」に採択された分の継続研究資料作成を、12人の共同研究者と共に継続した。また有力な印刷技術企業と連携し、日本文化を芸術文化財から見る新しい捉え方を提案し、その成果をマルチメディア作品として制作するという共同研究・共同開発も、平成22年度の準備を踏まえて、平成23年度に本格化させた。既にその試作作品を２点、「黄金と侘び（桃山期）」、「和漢混交（平安期）」というテーマで制作し、発表準備に移っている。

②空間情報科学研究者の集まりをプラットフォームとして、様々な先端的研究に関する討論を重ねた。これらの研究成果は、東京大学総合研究博物館の新しい展示計画や、その他様々な新しい試みに反映されている。

③日本建築学会をベースとする共同研究によって、これからの新しい生活環境を創出する理論と試みの事例をまとめ、「建築環境設計における発見・発想・試行をコントロールする方法論」を、研究成果として公刊した。

④本センター・デザイン総合部門の村上晶子客員教授との共同研究によって、ヨーロッパの文化・文明に基礎を置く、「キリスト教会」の設計理論と設計実践について、研究を継続すると共に、その成果を「12の祈りの空間－教会への希求」として公刊した。

○関連学会活動

産学連携学会活動を支援し、平成23年６月16日より第９回大会を佐賀大学にて開催するとともに、産学連携学会誌「産学連携学」第８巻１・２号を刊行した。また名誉会長の称号を受けて、長期の観点から学会活動に貢献すると共に、学術シンポジウム等の実施に貢献した。また学術的な貢献の一環として、九州大学産学連携センター・デザイン総合部門が中心となり、産学連携・知的財産関係の研究成果を社会に還元するため、産学連携学会・認定講習第二期第７回（各地域巡回にて実施／第１～４講座）および第三期認定講習第１～２回（九州大学東京にて開催／第１～２講座＋ワークショップ）を、国内産学官組織と連携しつつ、次のように実施（予定）した。

- 第二期第７回　平成23年12月５日　九州工業大学
- 第三期第１回　平成23年12月６日　九州大学（東京）
- 第三期第２回　平成24年４月27日　九州大学（東京）

さらに平成24年１月27日には産学連携学会・学術シンポジウムを、学術情報センターを会場に開催した。ここでは、知財学会・ベンチャー学会・研究技術計画学会・地域活性学会の４学会と共同し、オープン・イノベーションの実態から、そのプロセス構築の課題および工夫など、今後のイノベーション・リテラシー確立への様々な問題を議論し、また協力方法を考察した。産業界向けのテーマとしては大きな成功となり、学会史上最多の参加者を得た。

産学連携活動の成果から生み出される知的財産についても研究を深め、知財学会活動を支援して、平成23年６月25・26日に第９回大会（専修大学）に参加した。また11

月28日には、学術シンポジウム（東京・TEPIA ホール）に参加した。

またデザイン・芸術系の関連学会として、先ず日本建築学会については平成23年８月23～25日（関連行事も含む）に、早稲田大学にて行われた2011年度日本建築学会大会（関東）学術講演会に参加し、シンポジウム等での意見発表、および学術講演とセッションの座長を行った。また、計画基礎系運営委員会および情報設計委員会の幹事として、多くの研究活動の企画・運営を行った。

日本インテリア学会については、理事・広報委員長、九州支部長として日頃の学会活動推進に努めた。九州地域の活動全般を牽引しつつ、近年かなり減少している若手の学会会員に対する働きかけと、活動の活性化を進めている。またインテリア実務の振興に関連してインテリアコーディネーター試験事業を推進し、インテリア文化の普及と資格者・職能者の資質向上に貢献した。試験問題作成は28年間となり、試験問題の在り方や試験事業の在り方の再検討についても、エフォートを増して活動している。さらに、福岡県インテリアコーディネーター協会会長および九州インテリアコーディネーター協会協議会会長校としても、上記の実現に尽力した。また平成24年の設立を目指して、日本インテリアコーディネーター協会協議会・会長代行としての活動も開始した。

同様に生活環境の向上を目指した学会の一つとして、環境設計学会の活動振興に努力し、会長校として円滑な活動の推進に努めた。

○学会活動へのその他の貢献

「産学連携学」の建設とデザイン学との融合および発展についても着実に進行しており、その象徴的な問題の一つとして、科学研究費補助金　系・分科・細目表に、「産学連携・知的財産（学）」を項目名として入れるべく、さまざまな努力を継続した。引き続き担当機関である学術振興会と連携しつつ、５年に１度の表改訂に向けて各界の調整と、パブリックコメント等の公的手続きを行った。

また各地の商工関係者の中でも、デザイン知財の問題が取り上げられるなど、デザイン関連の知的財産研究あるいは知的生産としての産学連携に関する研究に、着実な進展成果を見た。関連して、福岡県中小企業家同友会産学連携部会 FAST と連携し、デザイン産業振興論・産学連携によるデザイン知的財産創出・産学連携知的財産原論、等々を講演および現地指導した。

またデザイン関連研究の紹介の一環として、本センター・デザイン総合部門の見学および説明会を開催、さらにはデザイン関連研究の普及啓蒙を目的として、宮内庁管理の京都離宮・御所、あるいは文化遺産指定運動が行われている都城市民会館の見学会（計４回）および報告会（計２回）を実施した。

○国立大学法人としての対外的活動

第24回国立大学法人共同研究センター専任教員会議開催（９月１～２日／鳥取大学）に参加し、主として各大学の産学連携・知的財産活動の見直し問題、および第４世代の産学連携活動（草の根イノベーション）について講演した。

産学連携センター客員教授による KASTEC セミナー等を実施し、学外からも多く

の空間研究者・視覚情報研究者・デザイン関係者・知的財産関係者に参加聴講してもらい、研究成果の社会還元と、有効な研究交流を行った。

○教育関連活動

また全学的な産学連携・知的財産への理解を推進するため、特に全大学院共通教育等の枠組みを生かして講義を実施した。先ず４月より、九州大学大学院共通科目「産学連携知的財産特論１・２」を実施し、「分野横断・分野融合」総合推進学としての「産学連携学」の大学教育への還元、知の横断的把握・知の相対化を考える学としての「産学連携・知的財産論」を、文学部から医学部まで幅広い院生を対象に講義・演習し、大学教育への還元を行った（箱崎キャンパス・伊都キャンパス・筑紫キャンパス・大橋キャンパス）。また、システム情報科学研究院と連携し、その学部３年次を対象に、知的財産権論、知的生産方法論としての産学連携論を講義した（伊都キャンパス）。

- 高等教育機構・全大学院共通講座
  （前期）「産学連携・知的財産特論－１、２」の開講
  （箱崎等４キャンパス、４～７月）
  （後期）「産学連携・知的財産特論－１」の開講（大橋キャンパス、10月）
- システム情報科学部「技術者倫理とマネジメント」講座の開講（４～５月）

○出版関連活動

主に建築デザイン系の学生大学院生のために、日本建築学会刊行物として出版社と共同し、複数の大学と連携して、『建築設計のための行く見る測る考える－発見・発想・試行のためのフィールドとデザイン』を執筆・編集し、設計・デザイン系の教育に対する社会貢献を行った。平成23年11月に発刊され、好評を得た。また九州大学産学連携センター・デザイン総合部門が主体となって行った、市民建築文化展 in 九州国立博物館の活動成果をまとめ、各関連団体・機関に、無料配布した。

産学連携学会刊行物としては、第１版内容を企画提案した「産学連携入門」（当学会認定講習および科学技術振興機構研修に使用）について、第２版の企画出版を完了し、各関連機関への配布・頒布を継続中である。当該書は、科学技術振興機構等で「講習会資料」として採用されている。また学会単独刊行物として、「特定非営利活動法人・産学連携学会　認定講習テキスト」（現状は15講座分）をまとめて、関連各機関に配布を継続している。また「特定非営利活動法人・産学連携学会　第二期認定講習テキスト」（現状は４講座分）を作成し、関連各機関に配布を行った。
独立行政法人・国立大学財務・経営センターと共同し、「国立大学財務・経営ハンドブック　第３集」の関連機関への配布を継続した。

○普及啓蒙活動

平成21年４月より行って来た中小企業経営者への「産学連携・知的財産活動の普及啓蒙・教育活動－中小企業経営開発講座」／「開物成務塾－中小企業経営・開発革新

講座」の活動を継続した。毎月２テーマを選び、「新製品・新事業開発」のワークショップ、および、「産学連携・知的財産学」講義と「新開発のための思考操作法・発想法」／「我が国における産学連携・知的財産活動」講義を行っている。また２カ月に１回は実行委員会を開催し、運営への希望や個別指導・相談希望の整理をしつつ、運営への反映を図っている。これは１年に１回、市民公開講座として公開している。また関連する内容を、対外的に広報・講演する活動も継続している。

○社会発信活動

共同研究データベース「九州大学・日本芸術文化資料庫データベース創生事業」（奨学寄付金0911000310／科学研究費・研究成果公開促進費データベース・平成20年度分採択・課題番号208002の継続作業を含む）の共同研究・公開資料作成・サーバーによる資料公開を継続した（サーバー公開／平成21年11月末、更新は随時）。

また独立行政法人・九州国立博物館と共同し、建築が様々な文化の容れ物であり、それ自体が人類の主要な技術と文化の粋であるとして捉えた、建築の技術と文化を表現する建築模型展『市民建築文化展』を発展させ、各種学校や父母の会への出張講義およびワークショップとして展開した。この事業を「スクールビジット／出前講義・ワークショップ」などと称し、各所で開催した。この中には、九州大学の社会連携拠点である「ルネット」（西鉄大橋駅前）での講演・ワークショップの開催も含まれている。この事業には、九州大学・社会連携事業資金（委員長：安浦寛人副学長）から、学内事業予算を受けている。本年度も多くの参加者があり、特に建築を専門としない一般社会への発信として効果を挙げた。

4.2.3　平成２４年度の事業計画

○人類の創り出した科学と芸術を調和し、また総合することにより得られる高レベルの研究を広範に実施していくため、以下の方策を推進する。

- 「空間・もの・音・画像・ネットワーク」といった総合的ジャンルにおける、デザインおよび芸術系独自の産学連携共同研究の推進。２つの関連企業との共同研究を基軸に進める。
- 自然科学系及び人文科学系におけるテクノロジーとデザインの融合に基づく横断型プロジェクトの企画および推進。
- 「産学連携学」の建設、および、デザイン学との融合および発展
- 「産学連携・知的財産」という領野を、様々な専門分野の横断的な知の領野と位置づけ、学内外において様々な教育の機会を設ける。

○デザイン・芸術分野における産学連携・共同研究の推進、TLO・DLO・CLO（デザイン・著作権を含む知財ライセンス）活動、およびデザイン知財移転や関連キャンパス・インキュベーション活動の促進などを通じて、デザイン・芸術分野研究の発展的整理と産学連携を中心とした総合的推進に取り組む。これにより、芸術デザイン分野における『知的創造サイクル』の推進につとめる。

○「異種融合・事業創造」総合学としての「産学連携学」の建設と発展、成果の若手研究者や一般社会への還元と知的再生産を促進し、「分野横断・分野融合」総合推進学としての「産学連携学」の大学教育への還元、及び大学教育の構造変革への寄与を行う。

• 高等教育機構・大学院共通講座
「産学連携・知的財産特論－１、２」の開講
（前後期／箱崎・伊都・筑紫・大橋キャンパス／５～７月・10～11月）

○産学連携学会活動に積極的に取り組むとともに、高知大学における平成24年度年次大会（第10回）に名誉会長として協力する。また、「産学連携学会」「知財学会」「ベンチャー学会」「研究技術計画学会」「地域活性学会」を中心とする「産学連携・知的財産に係る学会」あるいは「イノベーション・リテラシーに係る学会」の連携に向けて、積極的に発表・社会還元しつつ成果を相対化し客観的検証を行うと共に、その評価結果を研究プロジェクトの現場に反映することで質的向上を目指す。

○九州大学日本芸術文化資料庫事業については、データベース研究を継続しつつ、新しい展開を継続する。具体的には有力な印刷技術企業と連携し、日本文化を芸術文化財から横断的に見る新しい捉え方を提案し、その成果をマルチメディア作品として制作するという共同研究・共同開発を、平成23年度の準備を踏まえて、平成24年度に本格化させる。具体的にこの事業を産学官連携事業として発展させ、各方面に向けたシンポジウムを開催する計画である。平成18年１月から平成23年度まで継続して来たデータベース研究（更新）については、内容的には一段落させつつ、メンテナンスを継続する。

○また、デザインに関する科学研究費補助金の獲得努力も一部は既に実を結んだが、さらに「産学連携・知的財産」、「イノベーション・リテラシー」分野の重厚な研究助成に向けた、制度整備や獲得努力も継続して行く。

○部門の研究施設設備による学内支援活動は一段落したため、センター・デザイン総合部門内の１フロアを、「レンタルラボ」スペースとして改組し、学内のより広い研究活動支援に役立てる計画である。

○出版関連活動としては、日本建築学会をベースとした平成23年度の出版に継続して、「建築の予言（仮称）」という出版を計画する。建築環境の内容に関する方向性や社会的共通理解を示す「建築プログラム」に関する出版である。この第二版に続き、「建築設計のためのワークショップの進め方（仮称）」という第三版も計画している。これらは近年、生活環境の設計の仕方が変化していることに対応する、学術的課題である。またインテリア分野では、「インテリア学大系（仮称）」に対応する書籍の出版を計画する。その他、失われつつある「日本の民家・映像記録」等についても出版計画がある。